

## 障がい者陸上教室 (NUHW ParaTFC) の活動報告

高橋素彦、笹本嘉朝、佐藤未希、須田裕紀、勝平純司、  
前田雄、郷貴博、東江由起夫  
新潟医療福祉大学 義肢装具自立支援学科

【背景・目的】2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に向けて、日本各地で盛り上がりを見せている。これまで、パラリンピック競技においては、オリンピック競技に比べて、その人気や知名度はかなり劣っていた。しかしながら、パラアスリートがメディアに取り上げられる機会が増え、知名度は徐々に上がっている。さらに、障がい者を対象とした多くのスポーツチームが日本各地で活動しており、障害を持つ方が気軽に参加することが可能となってきた。本学においても昨年7月(2017年7月)から四肢切断者を対象に陸上教室を開始した。

本学で実施する障がい者陸上教室の目的は、以下に挙げる4項目である。

- ① 障がい者スポーツの普及と推進: 障がい者スポーツ人口の拡充とパラアスリートの育成を目指す。
- ② 学生教育: 現行カリキュラムにはスポーツ用義肢に関する科目はない。そのため、活動を通してスポーツ用義肢の製法や評価法についての理解を深める。
- ③ 研究活動: スポーツ用義肢に関する研究を推進し、パラアスリートの支援と育成に貢献する。
- ④ 地域連携・健康増進: 地域社会の活動力を育成し、障がい者を対象とした健康増進活動を行う。

【方法】本活動は、現段階では月に一度、月末の金曜日19時30分から21時30分までの2時間を活動時間としている。練習場所は本学陸上屋内走路である。参加者は、本学教職員(義肢装具士有資格者含む)、学生、義足使用者(大腿義足使用者)、理学療法士(近隣医療施設勤務者)、義肢装具士の30名程である。本活動を実施する上で、練習場所やスタッフの他にスポーツ用義肢パーツが必要となる。スポーツ用義肢パーツは高価であり、参加者全員分を購入し準備することは難しい。そのため、義肢パーツメーカーの協力のもと無償で借受けている。

義足使用者は、スポーツ用義足を用いてランニング練習を行う。そのため、義肢パーツメーカーより借受けたスポーツ用義肢パーツに交換する必要がある。この工程については、参加学生が行い、最終的に義肢装具士有資格者が全ての確認を行っている。健常者がスポーツ義足を体験することができる模擬義足やその他工具類等の準備についても参加学生が分担して行っている。

【結果】現在までの活動経過を以下に示す。

2017年7月より活動を開始し、現在(2018年8月)までに13回の練習会(図1)を実施している。初回参加者は、大腿義足使用者3名。スポーツ用義足を使用するのは初めてであり、立位バランスや歩行練習から開始した。以下に主な活動内容を示す。

2017年7月 「NUHW ParaTFC」活動開始。

2017年12月 多くのパラアスリートの義足製作に従事している義肢装具士を招いて練習会と講演会を実施。

2018年5月 「第19回新潟県障がい者スポーツ大会」に3選手が出場。全員が自己ベストタイムを更新。

2018年10月 新潟市代表として2選手が「全国障がい者スポーツ大会」に出場予定。

練習会以外の活動として、健常者がスポーツ用義足を擬似的に体験できる模擬義足を本学科学学生が製作している。これは、普及活動の一環としてイベント等で健常者が義足体験し、義足使用者を理解することを目的としている。さらに、絶対数が少ない切断者の走行に関する研究においても、模擬義足を用いることで様々な実験が可能となり有用である。



図1 練習風景

【考察】活動開始から1年が経過し、目的とする障がい者スポーツの普及と推進、学生教育、研究活動、そして地域連携と健康増進において、少しずつではあるが形になり始めている。しかしながら、目的の一つであるパラアスリートの支援および育成までには至っていない。今後は専門的知見や多面的意見が必要であり、他分野の学科教員および学生と連携を深めていく必要がある。

【結論】本学で活動する「障がい者陸上教室(NUHW ParaTFC)」は、義肢パーツメーカー協力のもと、近隣医療機関ならびに義肢製作企業との連携も構築されつつある。本学学生は障がい者スポーツを身近に感じ、積極的に支援している。今後も本活動の情報を発信し、より多くの方々が興味を持ち、参加してくれることを願う。